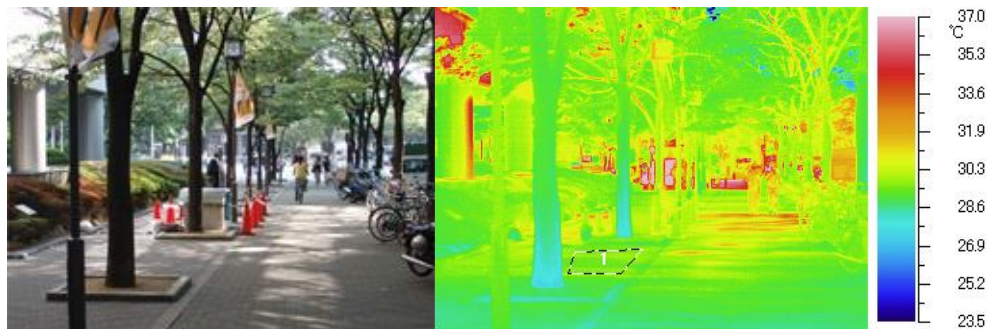


(2) 府域の適応策の取組み

○みどりの創出による適応策

① 緑陰形成



出典) 大阪府資料

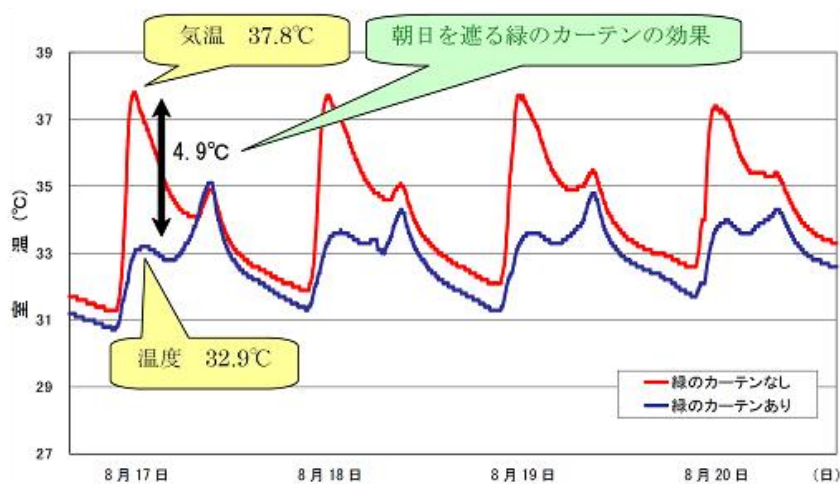
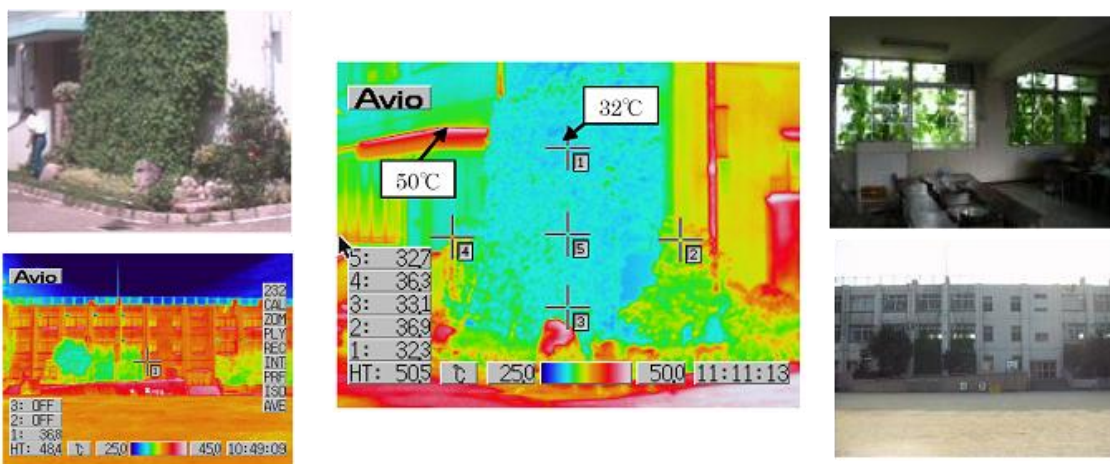
街路樹等の陰により、人への日射を直接低減するだけでなく、路面への日射を低減し、路面温度の上昇抑制にも寄与することができる。また、街路樹の根元付近は相対的に低温な地中温度が伝導によって地上部に現れるため、周辺の気温を微量ながら低下させるといった効果もある。歩道では連続した緑陰を形成することが重要であるが、信号待ちなどの熱ストレスを解消するために、スポット的に緑陰を形成することもある。



緑化による信号待ちの熱ストレス解消

出典) 大阪府資料

② みどりのカーテン



平成21年 ゆとりとみどり振興局調べ

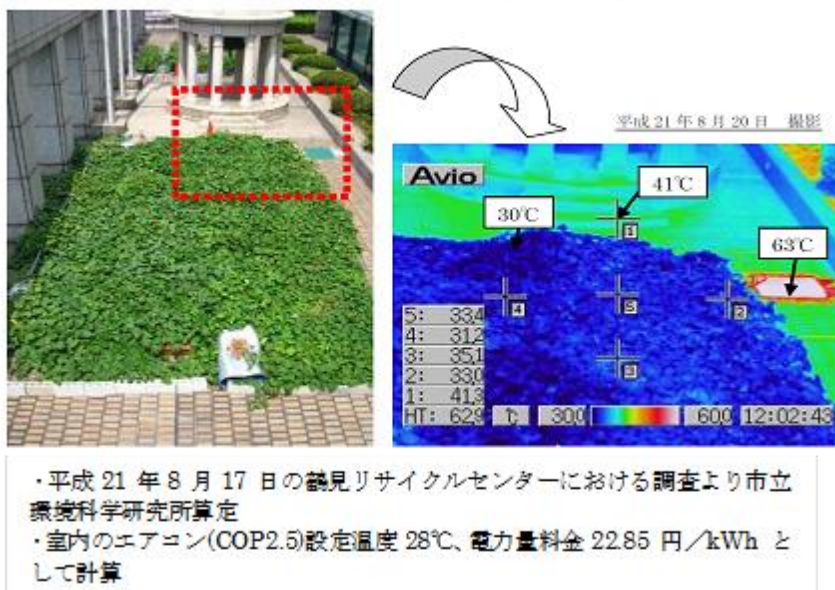
- ・教室の東面に緑のカーテン設置。西面には遮蔽物なし。
- ・換気していない密室状態の教室中央の机内にデータロガー設置。

出典) 大阪市資料

建築物の壁面に、みどりのカーテンを設置することにより、建築物壁面への日射が低減し、建築物の蓄熱が抑制され、歩行者空間にかかる壁面温度の上昇を抑制することができる。また、植物が夏の日差しを遮る効果が「見える化」され、効果がわかりやすいため、府民自らによる推進を促進することができる。さらに、建物へ貫流する熱量の低減、蓄熱が抑制されるため、建物の省エネも期待できる。

③ 敷地の緑化

○熱画像でみる表面温度の違い（撮影場所：大阪市役所 本庁舎屋上）



出典) 大阪市資料

敷地を緑化することにより、地表面の蓄熱を抑制し、路面の温度上昇を抑制することができる。また、水の蒸散作用により気温を低減することができる。

○建築物による適応策

① ミスト噴霧装置設置



出典) 吹田市資料

ミスト噴霧装置を設置し、ミスト散布することによって、水の蒸発作用等により、局所的な気温を低減することができる。吹田市では、商店街（全長1,044メートル）にドライ型ミストを導入し、7月から9月まで午前10時から午後6時までの間、自動制御によりミストを散布、商店街全体の気温上昇を抑制している。緑が少ない市街地のヒートアイランド対策となるだけでなく、買い物客は衣服を濡らすことなく快適に買い物を楽しめるため、再活性化にもつなげている。